五月廿八日　夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢　一ケ月金五拾錢　郵稅五厘
廣告料五號十一行金五拾錢
日曜祭日ハ翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

## 自由律俳句評釋

飯田野川

◇麥やく火の見えてくるからすと子供（樹一）

田園の情景である。私は街の人間で、麥をやくのがいつの季節なのかを知らないが、とにかく、田舍に見る事の出來る景色である。

この句は多分たそがれかゝる頃、作者が偶然見た所の印象であらう。黃昏であるからあたりは蒼い色につゝまれつゝある。一人の子供が、田圃道に立つて、感傷的に遠く眼界から消えかゝつて行く山や野面を見渡してゐると、その田のくろに烏が二三羽とまつて居るその子供の眼に麥やく火が見えてくる。今度は子供はその火を見つめてゐる。

作者はこの子供とからすを自家藥籠中に取り入れてこの一句を作つたらしい。私には、麥をやく火の色があり〳〵と見えるやうな氣がする。そしてからすと子供が……。

◇子に乳吸はしてをれば合歡のはな（野落）

作者野落氏が客觀の位置に立つて、靜かに眺めやつた句である。田舍の家の端居近く一人の婦人が、子に乳を吸はしてゐる。白い肌も見える。母性愛なども考へられるやうだ。子は母の乳の中に全精神を傾け盡してゐる。

その人事とまつたく無關係に崖の上に美しく合歡の花が咲いてゐた。これは純粹なる自然であらう、そして、此の自然と人事とが溶け合つて文學的情調を形作つてゐる。こんな句は初心者が讀んだら一寸不可解であらう。子に乳吸はしてゐるのが作者なのか、それとも誰なのか、合歡の花がその事柄にどんな關係があるのか、わからないと云ふのだらう。

◇灯を入れてまはりあんどう（清一郎）

實にうまい。客觀描寫が神に入つてゐる。中々かう端的にはなれない。正岡子規や高濱虛子等の稱えた寫生主義も此處まで到れば、實になんとも云ふことが出來ない。灯を入れたので、まはり燈籠が生きて來た。ぐる〳〵廻る影繪にも生命が入つた。

短律の手法にまはり燈籠を描き盡した所敬服の外はない。

◇からつ風の橋が一つ（二角）

◇山と山とうちがある（樹明）

こゝにかういふ二つの短律の句がある。二角の句は十二字、樹明の句は十一字である。

……續……

## 回顧

常磐詩集

華やかな思ひ出の舞臺が
走馬燈の樣に次から次へと
展開してゆく
或日の彼女——
うつすらと朝の空氣に浸つて
ほの暗い天井を見上げてゐる瞳に
かすかな震動と恐怖とが映し出されてゐる
ふと回顧——
脚光に照し出された自分を知る
華やかだつたあの頃は
純心な少女の露な肌に陶醉してゐる
人等の眼は人形のやうに一
的に凝視する
肌寒い風に
我に歸つて意識した彼女の瞳に
譯の解らない泊が雨のやうに流れてゐた

外科
專門
X光線科
上田外科醫院
平町南町
電話一九二番

▽是非！
御融通には御利用下さい
萬事便利な御相談に應じます
三井質店
平四・電六〇六番

◎電話新設
五四五番!!!
御寫眞は最近著しい進歩いたしました
『最新の採光と自然の御姿勢を』
常に尊重して御寫し申上たいと存じます。
尙ほ出張撮影御急ぎの場合は是非……。
電話五四五番へ御願いたします
平町仲田町【電話五四五番】
大野寫眞館

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
製造販賣
◈菓子壜
◈硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
◇支工場　仙臺市榮町（電五九七番）

ゼブラの自轉車
宮田自轉車　代理店
平局御用
エビスヤ自轉車店
平南町　電話六六四番
◇宮田自轉車九車度郵便局納め
五千二百輛
小店員入用　貳名（十五、四才）

魂の這入つた
フタバ自轉車で
フタバ式リヤカー發賣元
フタバ商會
平。新川町。月見橋際

富豐品洋型新
カツター……85より
アンダー……30
中折帽……95
ベレー帽……25
ネクタイ……30
靴下……10
割烹着……65
エプロン……20
中又……20
メリヤスシヤツ……50
トレイニングパンツ……1.25
平町二丁目【電話六〇五番】
山家メリヤス店
…運動にはクロネコのランパンツ

難醫波院
內科一般
醫學博士　難波睦
平町大町新川端
電五〇二

# 湯本町營グランド開き

## 入山、日立に快勝　平俱、磐炭に慘敗

### 第二日の野球戰

新裝成つた湯本町營グランドの球場開き第二日は紺碧の空初夏の陽光降り浴く二十七日入山對日立製作所、磐炭對平俱樂部の二戰が擧行された入山對日立製作所戰は午前十一時から池田、多田鯨岡三氏審判の下に日立先攻に開始

入山　3 1 0 1 0 1 2 0 A　8—1
日立　0 0 0 1 0 0 0 0 0

入山軍敵投手の不振に乘じて安打十本を亂發して合計八點を獲得したに反し日立軍石坂投手に制せられ七本の安打を放ち乍ら散發に終り遂に八對一で入山軍快勝す閉戰一時十分

（入山）

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 6 | 1 | 0 | 1 | 3 | 4 |

本野木坂面間澤井妻久
坂荻高石上佐西國朝
（一）
（二）
（左）
（投）
（右）
（捕）
（遊）
（三）

（日立）

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 7 | 0 | 5 | 6 | 9 | 4 |

本西邊藤林橋木藤丹
根大渡遠小倉櫻遠
（捕）
（二）
（投）
（中）
（一）
（右）
（三）
（遊）
（左）

引續き平俱樂部對磐炭戰は午後二時半から金土、朝妻大平三氏審判平俱樂部先攻で開始

磐　4 0 2 1 2 2 1 3 A　2—16
平　0 0 0 0 0 2 0 0 0

平俱樂部地方隨一の名投手坂井を擁し乍らバックの練習不足によるチームワークの缺乏と二萬一千圓の巨費を投じても猶を地盤軟弱を整備し得なかつた球場の惡コンデイションに厄されて磐炭の蹂躪に任せ十六對二で大敗した

（磐炭）

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 14 | 0 | 10 | 6 | 7 | 4 |

本森川邊井樂野井田
（弟）（兄）
根大隈渡涌設清涌森
（中）
（二）
（左）
（三）
（投）
（遊）
（一）
（捕）
（右）

（平俱）

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 2 | 0 | 0 | 8 | 5 | 7 |

部原野藤（信）
阿柏星佐坂鈴佐熊信
（武）井木藤坂澤
（捕）
（左）
（遊）
（中）
（投）
（一）
（三）
（右）
（二）

## 磐中軍　再び勝つ

### 對平商野球

球場開き第一日——磐中對平商戰は二十六日午后二時から鯨岡、水竹、佐藤三氏審判の下に磐中先攻で開始

平　1 0 0 0 0 0 2 2 0 4
磐　0 0 5 0 0 3 0 0 5　13—9

磐中軍三、六、九回の好機に集中安打を放つて十三點を擧げ平商六、七、九回の逆襲も力及ばず十三對九で磐中快勝した

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 2 | 8 | 0 | 8 | 5 | 10 | 3 |

木脇澤　田坂下橋野
々　森
佐西金　沼赤森島日
（遊）
（右）
（二）
（捕）
（一）
（投）
（三）
（左）
（中）

| 打 | 安 | 犧 | 盜 | 三 | 四 | 失 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 | 5 | 3 |

部野部澤野坂子川山
（兄）（弟）
阿草阿百小上增石秋
（左）
（中）
（石）
（一）
（捕）
（遊）
（二）
（投）
（三）

## 小名濱辛勝

湯本倶樂部對小名濱築港事務所の軟式野球戰は同日午前九時から小名濱先攻で開始八對七で小名濱勝つ

## 平商惜敗

### 選手權大會に

既報平商業學校柔道、庭球兩部の選手は昨日福島高商で催された關東北中等學校選手權大會に夫々出場して奮戰したが庭球部は第一回戰に宮城縣梅檀中學を擊破し第二回戰に進んだが本大會優勝校山形中學と對戰し惜くも敗れ柔道部は第一回戰で强豪福島師範と組んで敗れた

## 磐中野球遠征

磐中野球部では昨日湯本グランドに於いて平商業との決勝戰に優勝した餘勢を駈つて來月三日には水戸市に遠征同地商業工業兩校と試合を行ふと

## セメント優勝

四倉町雞鳴會主催第二回野球戰は昨日午前八時より同町小學校球場に於て球審石坂、壘審古河、佐藤各氏審判の下に擧行されたが磐城セメント軍の當り物凄く遂に優勝旗並にカップを獲得した

## 平商野球敗る

平商對日立製作所の野球試合は昨日午後三時より入山球場に於て國井氏球審の下に平商先攻にて開始七對一のスコアーにて平商が敗れた

## 第二球技結果

既報平第二小學校では去る廿七日午後一時より校內球技會を開き四年、五年のドッチボール六年以上のバスケット競技の結果成績左の如くである

（ドッチボール）四年一組　五年一組、六年一組、高一一組、高二二組、（バスケット）高一三組、高二二組

## 平町人事

### 回出生

△長橋町四八　當時廣島縣調郡三原町大字三原六〇二山角五郎　氏四男豊平

### 回婚姻

△三丁目二一　大井武五氏（二五）岩手縣江刺郡田原村大字石原及川菊枝さん

### 回死亡

△鎌田町六二　金成昭治氏（六〇）

△爾宜町金成ユキ（六一）

△北目町一五五　當時湯本町字寶海二〇鈴木イチヨさん（三七）

◉店員募集
年齢十五、六才　希望者は至急來店あれ


## 時報の編輯者に申す（一）

川崎文治

『吉村松崎兩町議に與ふ』と題する一文の第二回目を讀んだ、それに依ると盛んに僕が引合ひに出されて居る、丁度僕が呼び出し奴に呼び名をかけられて居る型だ、斯ふなると僕なる者も嫌でも土俵に上らずばなるまい。

君の一文に依ると僕の電話に對して「有難ふ」と云つたのは儀禮的の言葉に過ぎず、心中では甚だ多分の迷惑を感じて居る。この事だ、あの時の電話では大變諒解したらしい、君の返事に接したので意を强ふして居たのであつたが、今になつて君の言葉と心には大きな隔りのあつた事が解り、成程馬鹿正直では朗らかな世渡りは出來ぬものと泌々感服した。

それにしても僕の掛けた電話の內容なるものが君の云ふ處に依ると、何んだか僕が君の社に對して大層お爲めゴカシを云つた樣に受け取れるがこれはチト迷惑な話だ。

アノ日に僕の處の社員の報告に依ると、君が外交先の役場で、吉村、松崎兩君の取消文に關しプンプン怒つて居た、そして『こんな物を掲せる處かドシ／＼書き飛ばす』との事だつたと云ふ、此の報告を聞いて僕は君に電話を掛ける氣になつたのだ、電話の大要は君も忘れはしまいが

『アノ取消文は僕が書いたのだ、と云ふのは吉村君が君の新聞の記事を見て告訴をすると憤慨して居る、それでは問題を紛糾させると思ふから取消文を載せる程度で我慢してはどうかと漸く納得させ、僕が取消文の原案を書いたのだ、從つて取消文の內容に就いては僕に責任があるのだから吉村松崎兩君を惡く思はずにアレは掲載して貰ひ度い若し又アノ全文を君が見て非常に迷惑だと思ふなら、全文を載せずに「取消申込があつたから取消す」程度のものでもよい』

これが僕の電話の內容だ此の電話は坂本、橋本、梅崎三社員の仕事をして居る面前で掛けたのだから內容にウソ偽りはない。

處がどうだ、その翌日の君の新聞を叫ると、取消文は出て居た、然るに一方「吉村町議等に與ふ」と題し「あの取消文を見ると事實無根とある、一體兩君に常識があるのかどうか」と君は松崎、吉村兩君に食つて掛つて居る、僕は呆れてものが云へなくなつた、取消文の責任は僕にあるのだとあれ程諒解を得て置いたのに今更ら兩町議に非常識呼ばはりをしかねまじき劍幕で武者振りついて居る、何んと云ふ白々しい態度だ、故にこそ二回目の與ふる書に於いて君は僕の電話要旨なるものゝ肝腎な點をオロ抜きにして居る。【續く】

# 少年赤十字團員 神前に祈願 遭難兩將校に 神札を贈つて

平第一小學校少年赤十字團では過般江名沖合で飛機遭難し目下平町上田病院に治療中である島田大尉、三浦特務中尉の兩氏の一日も早く全快を祈るの餘り明日午後篠山團長以下全員が縣社子鍬倉神社に參拜、山部神官神詞を奏上祈願し神札を受け團員一同上田病院に兩將校を御見舞すると

## けふの……女青總會

既報平女子青年團の總集會は本日午前十一時より平館に於て開催團員笠原キヨさんのお花の有益と題する意見發表に次いで議事に移り副團長の補欠選擧を行つた結果曾我和嘉氏再選就任終つて平第一校長篠山廉氏の「女性の行く可き道」と題する有益な講演及び餘興として映畫があつた

## 小川村に托兒所を

十日間開設

小川村では小學校の農桑休暇を利用して來月四日より十日間校内に臨時保育所を設置し幼兒百名を收容すると

# 世界一新の大志に燃え上れ

昨日平青年團總會の講演

## 團長以下重任

平青年團總會は昨二十七日午後一時から平第二小學校講堂で開き豫算決算を附議役員改選を行れた結果團長柴田德二、副團長鈴木武雄青夫目源一郎三氏再選重任となり幹事は後日會長より指名することゝし議事を了り次で平凡社長下中彌三郎氏の講演に移り「青年よ世界維新の大志に燃え上れ」の題下に非常時日本並に最近の國際狀勢を說き若き青年の奮起を促す二時間有餘に亘る大熱辯を揮ひ講堂の聽衆を魅了して六時半閉會したが參會の團員二百名その他一般を交へ非常な盛況であつた

# 平町寄留壯丁結果

甲種十七名

平町寄留者壯丁の徵兵檢査は去る二十六日執行されたが受驗壯丁六十六名の中甲種合格者は左記十七名で壯丁の二割五分强に當り本籍の一割四分に比較すれば遙かに好成績であるが他町村に比しなほ多少の遜色がある第一乙種は六名、第二乙種十五名、丙種二十三名丁種五名であつた

胡摩澤田山實　同菊地幸治　長橋町森源次郎　禰宜町小野幸吉　同安濟芳春　田町佐藤金三郎　舊城跡古畑三男　五丁目佐々木正直　南町小林孝悅　材木町片島好堂　地角田勝治　柳町熊野留松　白銀町橋本清二　同伊藤武男　四丁目及川活　紺屋町山崎一郎　大町小林竹雄

# 齒を磨きませう

## 平第一小學校で訓練

平第一小學校では來月四日催される第七回全國虫齒豫防デー當日は各受持訓導の虫齒豫防の講話ある外兒童の齒磨訓練を行ふ筈

# 民政黨の役員改選

昨日の總會に

民政黨石城部會では昨二十七日午前十時から平町南町民政倶樂部樓上に總會を開き庶務報告の後役員改選を行ひ左記の如く決定した

（部會長）鷺清昇（副部會長）石川德壽、草野三郎評議員會長）小松章（副部會長）成瀨巴三（政務調査會長）近藤吉松、金澤爲喜（遊說部長）吉田寅之助、樫村清、木田藤次郎（情報部長）荒川淺次郎、植田三郎（常任幹事）吉村安次郎、鈴木盛之助、關勝重、廣木廣一、横山忠二外十名（相談役）名町村四名宛（顧問）稻葉廣吉、吉田五平

## 見學團出發

武裝甲斐々々しく

既報平商業學校四年生の軍隊見學團六十餘名は駒場配屬將校引率のもとに本日平驛午前八時十九分發列車にて武裝甲斐々々しく出發したが卅一日午后六時三十分平驛着で歸平すると

# 明日の天氣

廿九日

仙台放送局

氣豫報

今晩も明日も南西の風曇雨模樣

今晩の部

▼後六、〇〇子供の時間お話「口永良部島火山の破裂」松本唯一　▼後六、二五基礎佛語講座丸山順太郎　▼後七、三〇講演「アメリカ產業復興法に就て」經濟學博士　服部文四郎　▼後八、〇〇常磐津「恨葛露濡衣」（久八意見の段）常磐津政太夫外　▼後八、三〇舞臺劇「涙の四ツ橋」中村福助一座　▼後九、三〇時報コユース氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前六、三〇基礎ドイツ語講座　橋本忠夫　▼前七、二〇聖典講義「キリスト教の中心思想」今井三郎　▼前一〇、三〇母の講座「乳幼兒のからだの育て方」太田孝之　▼後〇、〇五二絃琴「千鳥」「蘆分舟」藤舍蘆勢他　▼後一、三〇音曲吹寄せ三升家勝治郎　▼後二、〇〇母の講座「不具に惱める人達に」金井良太郎　▼後六、〇〇子供の時間齊唱と合唱JOAK唱歌隊　▼後六、二五公民常識講座「農業經營」寺澤保房　▼後七、三〇講演「醫術の社會化の利弊」暉峻等　▼後八、〇〇歌謠曲　豆千代　▼後八、二〇義太夫「壇浦兜軍記」阿古屋琴責の段」竹本津太夫他

# 危いッ輝ちやん！

## 溺るゝ處を救はる

昨廿七日午後一時半頃杉平居住櫻場一郎氏二男輝義さん（四）は友達三名と折柄の快晴に高等女學校前櫻堀に出掛け遊びの最中輝ちやんが誤つて深所に轉落した物音に友達は驚いて急を知らせに駈け出した際折よく通り合した才槌小路鳥肉商鈴木郡司さんが發見衣類の儘飛込んで救助した

## 平校長打合せ

平町の三小學校長は來る卅日午前十時より第二小學校に打合せ會を開き農村學校の農桑休暇中平町小學校で公開教授を行ふ件及び來月の行事其他を打合せすると

## 教育部役員會

石城教育部會では明廿九日午前十時より平第一小學校に於いて役員會を開き來月三日開催される部會總會に就いて打合せを行ふ

## 坑夫無慘壓死

湯本町字八仙入山炭礦採炭夫管野吉藏（三五）は二十七日午前二時同坑第四坑内で採炭作業中落盤の下敷となり無慘の壓死を遂げた

## 平職業紹介所報告

回　人を求める方

△自動車修繕　二十才前後　尋卒　月五、六圓位
△道路修繕夫　二十　三十才位　月十圓位
△配達夫　十五　二十才　尋卒以上　給料面談
△農夫　三十　五十才位　月十圓位
△配達夫　十四　五才　尋卒　月五圓位
△外交員　二十才以上　高卒　歩合給

回　職を求める方

△事務員　二十七才　佑賢卒
△給仕　十七才　高卒
△トラック助手　二十六才　高卒
△土工夫　四十四才　尋二修
△魚屋店員　二十九才　尋卒
△給付　十九才　高一修
△機械工　二十二才　高卒

美味！芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町
電一七〇番

# 浮名の比翼 近新五面頭

（樂劇戲上映及上演）

田邊南龍（作）
山本英春（畫）

――四三――

盃を返しやるぞ

『ヤー公乃の顏へ疵を付けたな……』

と立上らんとしたのを一同が

『マアマア夫れぢやア宜くねえから』

と左右へ引分ける法華長兵衛は烈火の如くに憤り

『此の野郎叩つ切つて了へ此奴次第に依ると裏切りをしやアがるかも知れねえ、後の禍になる奴だによつて……』

『マア待ちなせえ、和郎さんも飲んでるし、此方も飲んでる、互に口數も多くなつて、つい斯ういふ事になつた何卒マア勘辨して』

と橋場の半七が一番に小平と情交よくして居たから臺所へ連れて來て、傍の四疊半の座敷へ入れ

『小平腹も嘸立たうけれども、一旦縁あつて親分子分になつたもんだから、今夜のところは我慢をして呉れるやうに……酒飲みといふものはだまして寢かすより外に仕方がねえ目が覺めると、同田貫でも、井上でも屹度乃公が和郎へ貰つて遣るから何卒今夜のところは元締長兵衛と仲直りのところに、内輪ゴタ〳〵なぞ

あつちやア宜くねえから、小平乃公も聞いてたが無理を云つたが無理を云つた譯ぢやアねえ、又和郎に無理は少ともねえ、今日元締になり損つたといふ廉があるから、斯ういふ事になつたんだ、マア乃公にどうか任して呉れ』

小平は半七の話を聞き

『宜しうございますぢやア和郎に任せる事にしやう』

『今夜これから遊びに行くと云つても大變だから、此處で一ト口飲んで雜魚寢としやうざやアねえか……』

『音、此處へ來て酒の相手エして呉れ』

音松と云ふ白痴野郎

『ヘエ』

音松を相手に殘して、半七は長兵衛を宥めに往つて了う、小平は飲みながら心の中で

『アー飛んだ事をして了つた養子先の寶物を取られて額へは疵を付けられ詰らねえこつた何う爲やう』

と考へて居たが、此男論語の一冊も讀んだことがあるから

『之やア・過ちと知つて改むるは善の大なるものなりといふから此處で一つ改心をしやう、そして幡隨院の長兵衛さんの所へ往つてこの始終の話しをなし法華の差して居る長物を元締の差して居るのを乃公が貰へば仔細はない、夫に就いて親分子分の盃を返して貰はふこりやア宜いところへ氣が往いた』

と思ふから小平が

『音……次の間に口取物があるから持つて來い』

と云はれ、白痴野郎何心なく次の間へ立つて行く跡に、小平捕まつちやア詰らないと思ふから、裏口を明けて尻を端折つて立出で來り、酒を一ト口飲んだ盃を竈の角へ載せて

『ヤー法華……』

『誰だ』

『誰でもねえ庵崎村の小平様だ汝が様な盜ッ人を親分に持つて居ちやア身の汚れだ、親分小分の盃を返して遣るから受け取れ』

ガラ〳〵と投付ける

『已れ…ソレ小平を捕まへろ』

『心得た……』

と皆んな表へ飛出しました。

初夏
カメラファンの活躍期です
MSカメラ
平驛前
いづみや玩具店
カメラ部

内科　小兒科　花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町　電話五〇七番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
（申込次第規則書進呈）

おなじみの魚清
蒲焼
うなぎ重
うなぎ丼
賣始めました。
どうぞ御用命を……
かばやき　五十錢
うな重　五十錢
うな丼　三十五錢
うな卷玉子　二十五錢（二人前分）
◎多量御注文の際は御相談に應じます
平三磐察景通り
魚清食堂部
電話六三三番
◇出前特至急入用
◎希望者ハ大至急來店アレ御委細面談優遇ス

喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお勸め致します
喜多流謠曲仕舞
白土會
平田町九六
電話一二七番
◇詳細は本會へ御問合下さい